

1 研究テーマ

「問い続け、学びを広げ深める児童の育成」

～学習経験の連続性を保つ授業過程の工夫と情報や思考を可視化する支援を通して～

2 研究テーマについて

(1) テーマ設定の意図

社会科は、問題解決的な学習を通して社会認識を広げたり深めたりして、みんなが幸せになるためにどうすればよいのかを問い続けていく教科である。社会科の学習を通して「問い続ける」ことで、社会的事象に関わる人々の思いや願い、工夫や努力などの「見えないもの」を見えるようにしていき、児童自身が「問い続ける」ことに価値を見出し出していけるようにしていきたい。

現行の学習指導要領では、資質・能力の育成に向けて社会的な見方・考え方を働かせながら学習問題を追究・解決する活動の充実が求められている。この社会的な見方・考え方とは、「社会的な事象を見たり考えたりする際の視点や方法」である。児童自身がこの「視点や方法」を意識しながら追究・解決できる学習活動を展開する必要がある、問い続けながら社会的な事象の本質に迫っていく問題解決的な学習過程が大切となる。

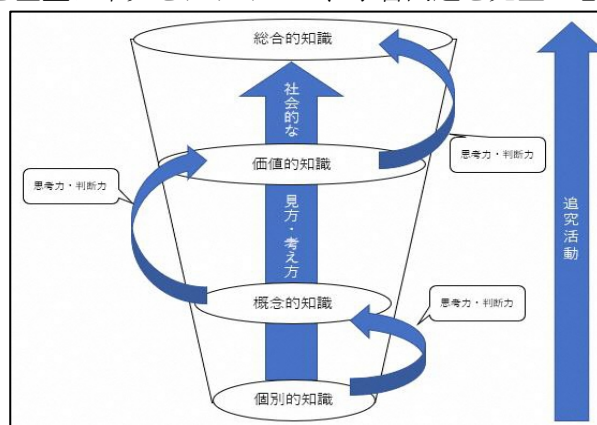
昨年度の私の実践では、単元の中で学習内容や児童の思考に連続性をもたせるため、前時までの学習内容や生活経験から児童自身が問いや予想を立て、資料を基に検証する過程を繰り返し行った。一単位時間の中で、問いを解決し新たな気付きや視点を得る姿も見られたが、単元を通したつながりを意識させることに弱さがあった。問題を追究する中で、児童自身が考えを形成したり解決したりするのに至った根拠や理由は何か、未解決のことは何かについて児童自身に認識させることで、新たな問いにつなげていくことが必要だった。

そこで、本研究では昨年度の実践を踏まえ、「問い続け、学びを広げ深める児童の育成」をテーマとする。単元全体を通して児童の問いを持続させ、単元を通して得られた社会的な事象についての情報を比較・関連付けたり、総合したりしながら、学びを広げたり深めたりさせていく。それを通して、単元全体を俯瞰し、社会的な事象の本質である「見えないもの」に迫らせていく。

(2) 研究テーマに迫るために

① 学習過程の連続性を保つ追究過程の工夫

学習過程の連続性を保つためには、児童自身に「考えてみたい」「解決したい」と思わせることが大切である。そこでPBL（プロジェクト・ベース・ラーニング）を基盤に単元をデザインし、学習問題を児童の思考や学習経験を基に段階的に設定する。追究過程で、社会的な見方・考え方の視点を教師が意識し、児童自身が追究活動の中で気付いていけるようファシリテートすることで、社会的な見方・考え方を醸成していく。また、一単位時間の中で解決できたこととできていないことを明らかにしていくことで、次時の学習に問いが続いていくようにする。単元を進める中で、児童がどのような資質・能力、特に思考力・判断力の段階にあるのかを適切に評価する。追究活動を通して知識の質が変容することで学びの広がり生まれ、それと同時に思考力・判断力が育まれていくことで、学びの深まりが生まれていくと考える。（資1）



（資1）知識類型と思考力・判断力の段階のイメージ

② 情報や思考を可視化する支援

問い続ける学習過程では、各種資料から適切に情報を読み取ったり、何を根拠にどのように考えをまとめ

て、何が分かっていないのかを児童自身に認識させたりすることが必要である。そこで、児童自身が追究活動で得られた情報や考えを整理したり、比較・関連付けたりするための学習シートを準備し活用させる。各種資料から得られた情報（根拠）を比較・関連付けてどんなことが言えるのか（理由・考え）を考え、まとめさせる。また、個人のまとめを持ち寄って話し合い、多様な解釈に触れさせることで、新たな学びや気付きが得られるようにしていく。さらに、まだ分かっていないことについては、次時以降の学習の問いにつながる情報と位置付ける。一単位時間ごとの学習シートをデジタルポートフォリオとして蓄積していくことで、単元の終末で児童自身が単元全体を俯瞰して思考する際の資料にできるようにする。

(3) 研究テーマに関わる評価

上述した手立てを組み込んだ単元を、自学級（5年1組27名）を対象として実践する。

学習シートの記述や学び合いの様子、振り返りの記述等から学びや思考の変容を分析する。その際、学級全体と抽出児（A児）の変容の傾向を比較することで、手立ての有効性について検証する。

【A児について】

社会科の学習に意欲的で、分からないことや気になることは進んで調べようとする。また、課題の解決に向けて話し合いをする際も、自分の考えを言うことができる。しかし、調べて分かった情報や友達のことを比較・関連付けたり、総合したりする際に、結論が出せないでいる様子が見られる。また、1単位時間の中で問いの意識が完結しており、単元全体を通して既習をつなげ、問題を解決する力に弱さが見られる。A児には、単元を通して問いを持続させ、既習をもとに比較・関連付けたり、総合したりしながら最終的に問題を解決していく姿を期待する。

3 単元と指導計画

(1) 単元名

「目指せ！日本一の自動車メーカー～自動車の生産にはげむ人々～」(『小学社会5』 教育出版)

(2) 単元の目標

我が国の工業生産について、製造の工程、工場相互の協力関係、優れた技術などに着目して、地図帳や地球儀、統計などの各種の基礎的資料で調べ、まとめ、工業生産にかかわる人々は、消費者の需要や社会の変化に対応し、優れた製品を生産するよう様々な工夫や努力をして、工業生産を支えていることを理解できるようにする。また、主体的に学習に取り組み、我が国の工業の発展を願い我が国の将来を担う国民としての態度を養う。

(3) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①製造の工程、工場相互の協力関係、優れた技術などについて写真や統計などで調べ、必要な情報を集め、読み取り、工業生産に関わる人々の工夫や努力を理解している。	①製造の工程、工場相互の協力関係、優れた技術などに着目して、問いを見だし、工業生産に関わる人々の工夫や努力について考え表現している。	①我が国の工業生産について、予想や学習計画を立てたり、学習を振り返ったりして、主体的に学習問題を追究し解決しようとしている。
②調べたことを文や表などにまとめ、工業生産に関わる人々は、消費者の需要や社会の変化に対応し、優れた製品を生産するよう様々な工夫や努力をして工業生産を支えていることを理解している。	②工業生産に関わる人々の様々な工夫や努力を総合して、それらの人々の働きを考えたり、学習したことをもとにこれからの工業生産の発展について考えたりして、適切に表現している。	②学習したことをもとに生産者や消費者の立場などから、これからの工業の発展について考えようとしている。

(4) 単元と児童

① 単元について

小学校学習指導要領社会の第5学年の目標には、我が国の産業の様子、産業と国民生活との関連について理解できるようにし、我が国の産業の発展や情報化の進展に関心をもつようにすること、社会的事象を具体的に調査するとともに地図や地球儀、統計などの各種の基礎的資料を効果的に活用し、社会的事象の意味について考える力、調べたことや考えたことを表現する力を育てるようにすることが示されている。そこで本単元では、日本を代表する工業である自動車工業を取り上げ、そこに従事する人々の工夫や努力、貿易や運輸などの働きに支えられて生産されていること、環境や人にやさしい車をつくるために研究・開発を重ねていることなどを手がかりにして、我が国の工業生産が国民生活の向上や産業の発展に果たしている役割を考えられるようにする。

実際の指導では、PBL（プロジェクト・ベースド・ラーニング）を基盤にした単元をデザインし、児童に「もし自分が自動車会社の社長なら」という視点を与える。はじめに「新しい工場をどこに建て、どのように自動車を作るか」（学習問題①）を考えさせることで、工場の立地条件や関連工場とのつながり、原料や製品の輸送などについて調べる必要性に気付くと考える。次に「どんな自動車を生産するか」（学習問題②）を考えさせることで、実際に売られている自動車や消費者のニーズ、企業の工夫や努力について調べる必要性に気付くと考える。このようにPBLを基盤にした単元デザインを行うことで、児童自身の興味関心を高めるとともに、問い続ける必然性をもたせ、児童自身の力で学びを広げたり深めたりさせていく。

② 児童について

男子13名、女子14名、計27名の学級で、5年生の学級編制で学級が改められた学級である。多くの児童が積極的に挙手・発言をしたり、考えをつぶやいたりしている。しかし、学力差が大きく、板書の意味を考えながらノートに写し、授業を受ける児童もいれば、板書を写すだけでも困難な児童もいる。

社会科の学習では、前期の農業と水産業の単元でもPBLを基盤にした学習を行った。単元のはじめに「自分が社長だったら」という状況を設定し、単元の終末で社長として価値判断する活動を行った。多くの児童が問いを持続させながら資料と真剣に向き合い、自己決定する姿が見られた。また、自分の考えをグループの話し合いやさらなる追究活動を通してより精度の高いものに修正していく児童もいた。しかし、資料の読み取りが浅く、価値判断はできてもその根拠や理由が乏しかったり、ずれてしまったりしている児童もいた。

(5) 単元の指導計画と評価計画（全11時間、本時3／11時間）

時間	ねらい・学習活動	評価規準（評価方法）		
		知識・技能	思考力・判断力・表現力等	主体的に学習に取り組む態度
1	昔と今の町の様子や自動車の違いを比べたり、実際の自動車を見たりすることを通して、自動車への関心や学習意欲を高める。			・態①（観察、ノート分析）
2	日本の工業生産の概要から自動車産業が盛んであることを理解し、単元を貫く学習問題や学習計画を立て、見通しをもつ。			・態①（観察、ノート分析）
3 ・ 本時	自動車工場の様子や輸送方法を複数の資料から読み取り、分かったことを整理したり関連付けたりして工場の立地条件を考える。	・知①（観察、学習シート分析）	・思①（ノート分析）	

4	自動車の組み立てラインの具体的な作業の様子を調べ、大量生産を支えている効率のよい生産の工夫や努力について考える。	・知①（観察、学習シート分析）		
5	自動車工場で働く人の様子を調べ、生産に込められた人々の工夫や努力、仕事に対する思いについて考える。	・知①（観察、学習シート分析）	・思①（ノート分析）	
6	部品を生産し届ける工場について調べ、部品調達における工夫や関連工場の役割について考える。	・知①（観察、学習シート分析）		
7 ・ 追実践	今の自動車に求められていることについて予想し、多様な人々のニーズや社会の動向と自動車生産との関連について調べ、分かったことを整理する。	・知①（観察、学習シート分析）	・思①（観察、学習シート分析）	
8 ・ 9	単元の学習を振り返り、自動車生産を支える環境（工場の立地条件や生産の流れ）や消費者のニーズや社会の動向に対応した自動車作りについて、働く人の工夫や努力等を整理し、様々なニーズや課題に応えるこれからの自動車生産について考え、自分の自動車メーカー設立プランにまとめる。		・思②（観察、学習シート分析）	・態①（観察、ノート分析） ・態②（観察、ノート分析）
10	各自の自動車メーカー設立プランについて紹介し合い、その良さや改善点について話し合うことで、単元全体の学びを確認し合う。		・思②（観察、学習シート分析）	・態①（観察、ノート分析）
11	単元の学習を振り返り、これからの自動車作りに大切なことについて話し合い、日本の工業の発展について考え、まとめる。		・思②（観察、ノート分析）	・態②（観察、ノート分析）

※学習過程【学習問題をつかむ】1・2時【学習問題を追究する】3～7時【まとめる】8～11時

※本時（3時間目）の反省を踏まえ、手立てを修正して7時間目に追実践を行った。

4 本時の展開

(1) ねらい

○自動車工場の規模や施設、輸送方法等の資料を読み取る活動を通して、工場施設の立地条件に気づき、自分の工場を建てる場所を考えることができる。

(2) 展開の構想

① 学習過程の連続性を保つ追究過程の工夫

- ・単元の学習問題や学習計画を振り返り、児童のつぶやきを拾いながら本時の学習問題を設定する。
- ・資料に必要感をもたせるために、本時の学習問題の解決につながる資料を、児童自身に探させる。その際、教科書、資料集、地図帳を基礎資料として調べ活動を行わせる。
- ・調べ活動で得られた情報（個別的知識）をもとにグループで話し合ったり、全体でまとめたりすることで、自動車工場の立地条件（概念的知識）を考えさせる。その際、工場の規模、施設の様子、輸送方法など、複数の視点から工場の立地条件を考えられるようにしていく。

- ・本時の学習問題を解決するだけでは、工場の立地という全体像は分かっても、実際にどんな作業が行われているかについては焦点が当たらない。そこで、本時の終末で「もう自動車が作れるね」と問うことで、生産工程や工場の様子に焦点を当て、次回の学習の見通しをもたせる。

② 情報や思考を可視化する支援

- ・調べ活動で得られた情報をロイロノートの学習シート（Xチャート）にまとめさせる。1項目1カードとすることで、情報を分類しやすくする。また、学習シートに整理した情報を基に話し合わせることで、他の人の情報と比較したり、関連付けたりする際の手助けとなるようにしていく。
- ・本時の学習で分かったことをもとに、工場の立地について振り返りにまとめ、単元を貫く学習問題からのつながりが分かるようにロイロノートに保存させ、学習の流れを把握しやすくさせる。

(3) 展開

時間 (分)	学習活動	○教師の働き掛け ●予想される児童の反応	□評価 ○支援 ◇留意点
3	1 単元の学習問題を確認し、本時の学習問題を設定する。	○単元の学習問題の解決に向けて、まずは何を調べたらよいでしょう。 ●まずは工場を建てる場所を決めたいな。 ●どんな場所に工場を建てるか良いのかな。 <div style="border: 2px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">◎自動車工場を作る場所に合う条件は？</div>	◇児童のつぶやきを拾いながら学習問題を設定する。
5	2 予想する。	○学習問題を解決するには何が分かればよいでしょう。 ●自動車工場の様子 ●完成した自動車の輸送方法 ○工場を建てるには、どんな場所だとよいでしょう。 ●大きい建物を建てるから、広い平地。 ●働く人がたくさんほしいから、大都市。 ●完成した自動車を輸送するから、高速道路の近く。	◇工場全体の様子を周囲の様子が分からないよう加工して提示する。
2	3 学習問題の解決に必要な資料を探す。	○自動車工場の場所が分かる資料を探しましょう。 ●教科書 P. 122 (福岡県苅田町) ●資料集 P. 70, 75 (愛知県豊田市) ●地図帳 P. 97, 98 (日本全体の工業分布)	○学習問題の解決に必要な資料を児童自身に探させ、全体で共有する。
10	4 学習問題について、資料をもとに調べる。	○資料をよく読んだり、比べたりしながら、自動車工場の場所の特徴をまとめていきましょう。 ●自動車工場は様々な施設があつてとても広い。 ●福岡県苅田町の工場は海の近くにある。 ●愛知県豊田市の工場は高速道路の近くにある。 ●日本全体の工業分布を見ると、自動車工場が太平洋側の海沿いに多い。	◇学習シートをロイロノートで配信し、調べたことを書きこませる。 □「輸送しやすい海の近くの広い土地に工場が多く立地していることを資料からの確に読み取っているか」を評価する。
10	5 調べたことを発表し合い、学習問題についてまとめる。	○調べたことをもとに、自動車工場を建てる場所に合う条件をまとめましょう。 ●たくさんの施設を作るための広い土地が必要だから平地が良い。山地だと土地が狭い。 ●高速道路や海の近くだと、完成した自動車をすぐに輸送できて良い。	◇調べた情報を基にグループで話し合い、キーワードを考えさせる。

15	6 自動車工場の立地条件について分かったことをもとに、自分の工場を建てる場所を考え、振り返りにまとめる。	<p>●働き手を確保するために、大都市だと良い。</p> <p>○今日分かったことをもとに、自分の自動車工場を建てる場所を考え、まとめましょう。</p> <p>●海や高速道路に近い広い平地が必要なので、関東平野にある神奈川県につくりたい。人口も多いので、働く人も多いし、大きな港もあるから立地条件に合う。</p> <p>●海や高速道路に近い広い平野が必要なので、神奈川県に作りたい。</p> <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>【まとめ】自動車工場を建てるには、たくさんの施設を作るために広い平地が必要で、輸送のために高速道路や海の近くにする必要がある。</p> </div> <p>○工場を建てる場所が決まったから、もう自動車が作れますね。</p> <p>●どうやって作るか分からない。</p> <p>●工場の中がどんな様子か知りたい。</p>	<p>○児童の考えに合う写真を適宜提示する。</p> <p>□「自動車工場の規模や施設、輸送方法などを関連付け、工場の立地条件を考えているか」を評価する。【思①（ノート分析）】</p> <p>○板書のキーワードや写真を基に、地図帳P. 87、97を比べて考えさせる。</p> <p>◇児童の声を拾いながら、次時の学習の見通しをもたせる。</p>
----	--	--	--

(4) 評価

評価項目	A	B
「輸送しやすい海の近くの広い土地に工場が多く立地していることを資料からの確に読み取っているか」を評価する。【知①（観察、学習シート分析）】	資料から、工場の規模、施設の様子、輸送の方法についての情報を読み取り、それらの理由を入れてカードに書いている。	資料から、工場の規模、施設の様子、輸送の方法についての情報を読み取り、カードに書いている。
「自動車工場の規模や施設、輸送方法などを関連付け、工場の立地条件を考えているか」を評価する。【思①（ノート分析）】	本時でまとめたキーワードをもとに、自動車工場を建てる場所を考え、調べた情報を関連付けながら理由を入れて記述している。	本時でまとめたキーワードをもとに、自動車工場を建てる場所を考え、記述している。

5 実践を振り返って

(1) 指導の実際

本研究ではPBLを基に単元デザインを行い、「もしも自分が社長なら」という視点を児童に与え、「新しい工場をどこに建て、どのように自動車を作るか」、「どんな自動車を生産するか」という単元を貫く学習問題を、児童の発言やつぶやきを基に段階的に設定し、追究活動を行った。

本時では、自動車工場を作るのに適した場所について資料を基に調べ、考える学習を行った。本時の学習問題「自動車工場を作る場所に合う条件は？」を提示した後、周囲が見えないように加工した自動車工場の写真を提示し、予想させた。すると、児童からは「広い土地」「海から離れた場所（自動車がさびないように）」といった考えが出された。この予想を確かめるために、教科書、資料集、地図帳から証拠となる資料を探させた。目的がはっきりしていたことで、様々な資料をすぐに見付け、全体で共有することができた。その後、児童が見付けた



(資2) 本時で用いた学習シート

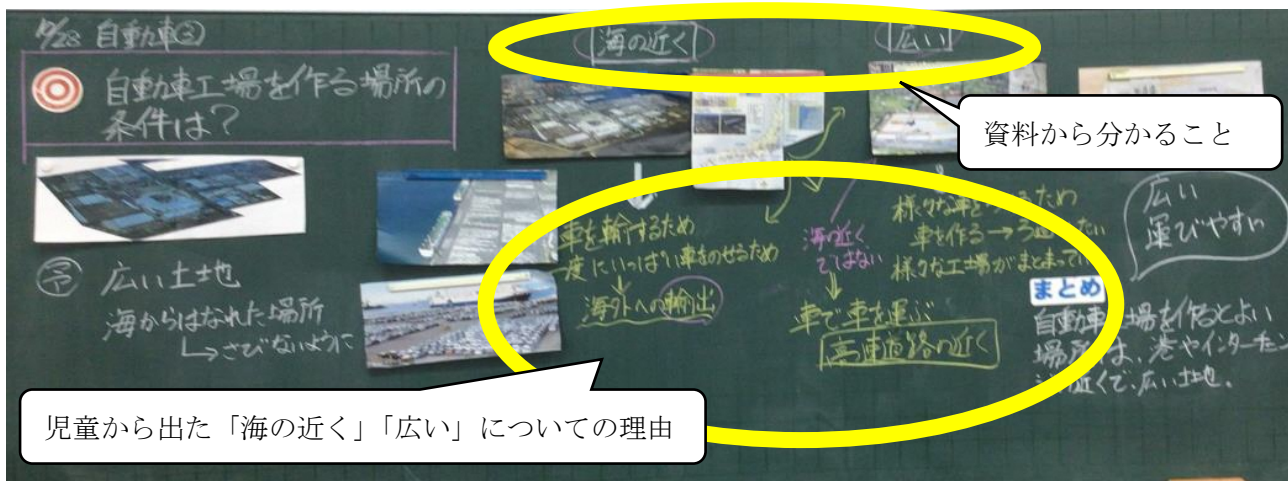
資料を貼り付けた学習シートをロイロノートに配信し、資料から分かることをカードにメモして貼り付けさせた。(資2) 学習シートが配信されると、A児をはじめ、多くの児童はそれぞれの資料をじっくりと見比べながら、個々について分かることをたくさん書き出していった。また、中には資料を見る中で生まれた疑問について、インターネットを使って自主的に調べる姿も見られた。しかし、調べることに一生懸命になり、その後の話し合いにスムーズに進むことができなかった。

これは、児童に調べる必要性を感じさせることはできたが、話し合う必要性を感じさせることができなかったためである。この原因は、次の2つであると考えた。

- ①全員が同じ資料について調べ、分かることを出し合った。
- ②資料から分かることの理由を考えさせることの押さえが弱かった。

まず①については、全員が同じ資料を基に調べることで、社会的事象の核となるキーワードを出しやすくすることがねらいであった。しかし、全員が同じ資料を用いることで、注目する点や出される考えがほぼ似たようなものになってしまったことで、互いの考えについての疑問やずれが生じず、話し合う必要性が感じられず、事実の確認で終わってしまったのではないだろうか。

次に②については、理由を書くことを口頭で指示したのみだった。ロイロノートの特性上、たくさんのカードが無造作に追加されていくため、あえて理由を書く欄を設けなかった。分かったことと理由をしっかりと書く児童もいたが、半数近くの児童が分かったことの記述のみとなってしまうていた。これは、話し合う必要性を感じさせることができなかったことも影響していると考えられる。しかし、友達との交流の際に理由を話したり、つぶやいたりしている姿もあり、調べる中でしっかり理由を考えていることが分かった。(資3)

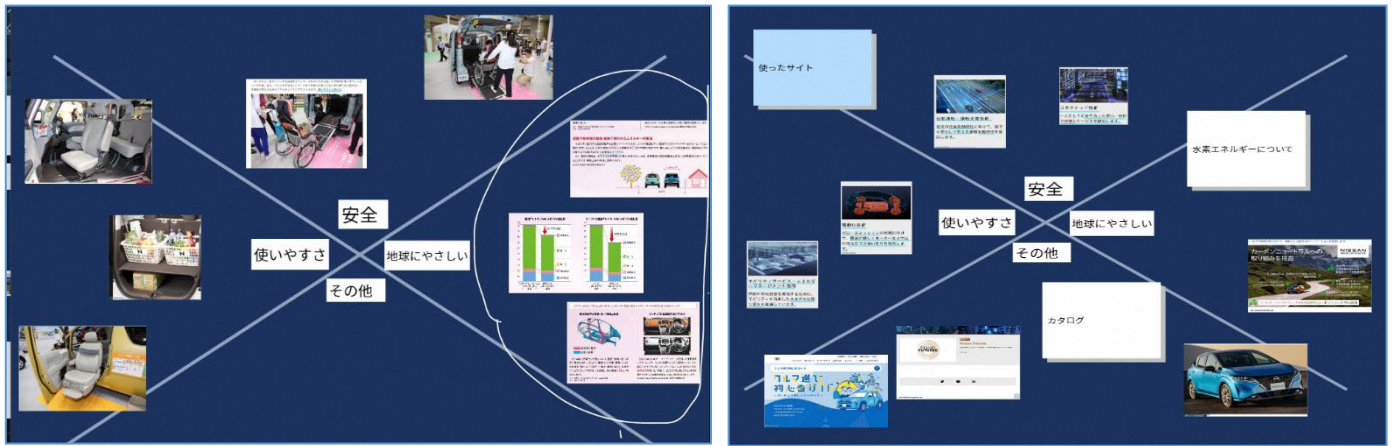


(資3) 本時の最終板書

本時で見た課題を受け、7時間目に手立てを修正した追実践を行った。この時間は、多様な人々のニーズや社会の動向を反映した自動車生産が進められていることを捉えるための学習を行う時間である。

本時の導入で様々な自動車が売られていることを押さえた上で、「社長としてどんな車を作ったら売れそうか」という視点で予想を出させた。児童に自由に発言させた後、出てきた意見をまとめさせると、「安全」「使いやすい」「地球に優しい」というキーワードが見えてきた。そこで、実際に売られている車が本当にそうなっているのかを検証することにした。今回は、児童から出されたキーワードを記載した学習シートをロイロノートに配信し、それらのキーワードの証拠となる資料を調べ、貼り付けさせた。(図4)

今回は、予想を基に共有したキーワードを揃えるのみで、検証に用いる資料は全員異なるものになった。そのため、自分が見つけた資料について友達に伝える必要感が生まれ、カードに理由を書いたり、資料と資料を線で囲んだりつないだりして、比較・関連付けする姿が多く見られた。また、他の人がどんな資料を見つけたのか知りたいという興味も高まり、進んで資料について話し合ったり、まとめを行ったりする姿が見られた。



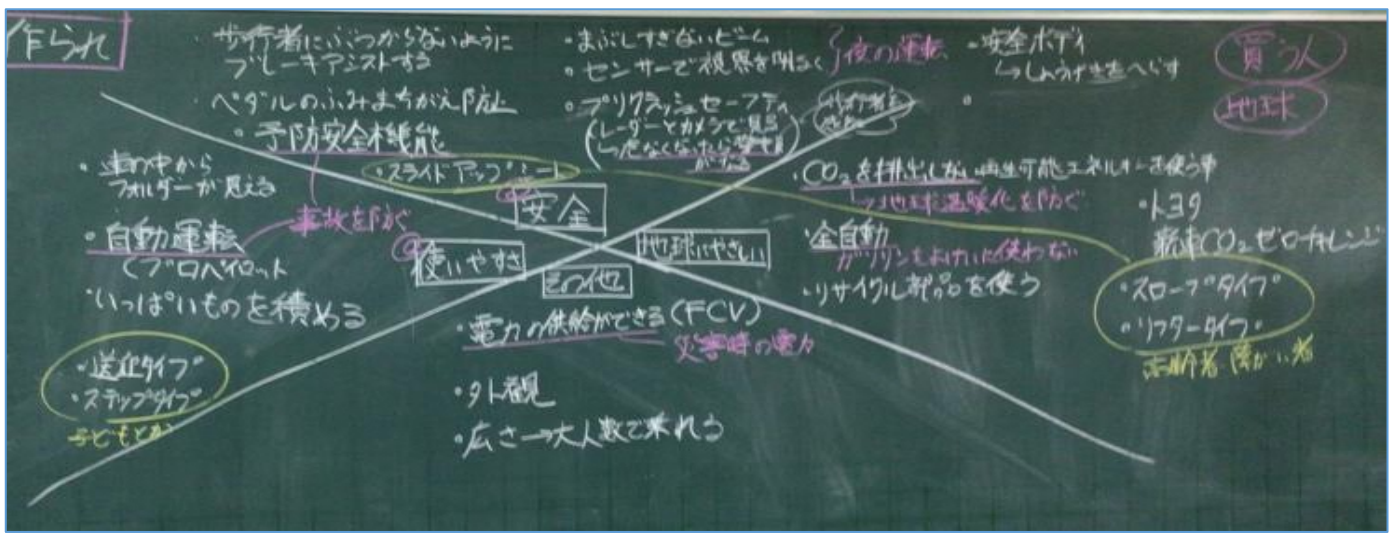
(資4) 追実践の学習シート・・・一人一人集めた資料が異なっている

全体共有の際も、個々が見つけた多種多様な資料を基に話し合いが行われた。その際、児童から出された資料や理由について問い返していくことで、その理由を深めたり、それぞれの資料に共通するキーワードを出させたりすることができた。(資5・6) 最後に児童一人一人が記述したまとめからは、実際に売られている自動車には多種多様なニーズや問題に対応するための様々な工夫や機能が詰まっていることに気付いた様子が見られた。(資7)

C1: 「地球に優しい」のところで、CO2を排出しない再生可能エネルギーを使う車です。
 T: その車だと、何かいいことあるの?
 C1: CO2を排出しないから、空気が汚れない。
 C2: CO2が出ないと地球温暖化を防げるんじゃない?
 C1: そう、地球温暖化を防げるから、環境、地球に優しい。
 C3: 付け足して、トヨタは新車CO2ゼロチャレンジっていうのをやってるそうです。
 T: どういう取組かな?
 (以降省略)

C1 = 抽出児(A児)

(資5) 全体共有でのやり取り



(資6) 追実践で児童から出された証拠とその理由

- ・安全性や使いやすさなど、いろいろな目線から見て作るのが大事。
- ・車を買う人や乗る人だけでなく、みんなのことを考えて自動車を作ると良い。(抽出児(A児))
- ・人間だけでなく、環境のことも考えた自動車を作ると、人間にも良いことがある。

(資7) 追実践で記述した児童のまとめ

(2) 研究テーマにかかわって

3時間目（本時）と7時間目（追実践）を終えて、本研究の手立てについて次のような成果が見られた。

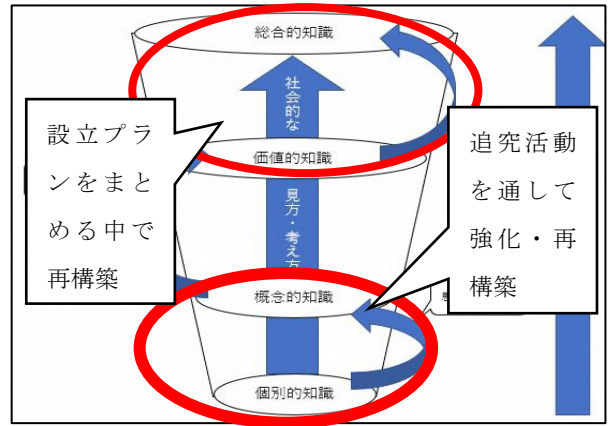
① 学習過程の連続性を保つ追究過程の工夫 「個別的知識を概念化する過程と問い返し」

本研究で扱った単元では、児童にとって身近な自動車が題材であった。そのため、生活経験として自動車について様々な知識を有している児童が多くいた。しかし、そうした知識は、断片的な個別的な知識であり、本単元の中心概念に迫るためには不足している知識もあった。単元のはじめに「自分が社長なら」という視点を与え、自動車メーカー設立プランを作ることをゴールとして設定したことで、自動車作りを自分事として捉えさせ、様々な立場から自動車作りについて追究する姿につなげることができた。

また、単元を通じた追究活動の中で、予想を検証するための資料を探すを通して、単元に入る前から有していた生活経験による知識が強化されたり、新たな知識を獲得したりする姿が見られた。調べ活動で得られた情報（個別的知識）についての理由を考え、友達と話し合うを通して、それぞれの情報の共通点を見付け、概念的知識へと高めていく様子も見られた。（資8）

さらに、一時間の終末で個別的知識が概念的知識に強化・再構築されて安定している児童に、単元を貫く学習問題に立ち返って「もういいよね？」と問い返すことで、さらなる疑問を見出させ、次の時間の追究活動につなげていくこともできた。

単元終末では、社長として価値判断する自動車メーカー設立プラン作りを行った。単元の追究活動全体を通して得られた個別的知識を強化・再構築した概念的知識を基に価値判断し、地図帳やインターネットなど様々な資料を活用して、価値判断の根拠や理由となる資料を探しながらまとめていくことができた。（資9）
 その中で、単元全体の学びを俯瞰して改めて日本の自動車生産について振り返り、工業の発展について考える姿も見られた。PBLを基にした単元デザインを行い、児童を強制的に別の立場に立たせたことで、児童自身が社会的事象を自分事として捉えたり、様々な視点から考えたりしながら知識や思考力・判断力の段階を高めていくことを促すことができたと思う。



(資8) 知識類型と思考力・判断力の段階のイメージと本実践で見られた姿

自動車工場を日本のどこに建てるか？

茨城県ら辺(鹿嶋市くらい)

- 太平洋ベルトに入っている(ぎりぎり)
- 製鉄所がある。
- 海が近くにある。
- 工業地帯

どんな自動車を売りにするか？

電気自動車
電気自動車なら1日にいっぱい走ったりしてもガソリン車よりもっとも安く安全安心だとお客さまも喜んでくれそうだからです。

電気自動車	1,000	14.0	148	10,571
ガソリン車	1,000	0	11.82	1,970

(資9) 抽出児：A児がまとめた設立プラン

② 情報や思考を可視化する支援 「Xチャートの活用と追究活動の設定の仕方」

本研究では、主にロイロノート上のXチャートを活用して実践を行った。本時では、学習問題について予想した後、児童が見付けた共通する資料について全員で分かることや理由を記述させた。一方、追実践では、学習問題について予想した後、その予想を分類、整理してキーワードを見出し、その証拠となる資料を探させた。どちらも調べた情報を可視化し整理させることができたが、本時の流れでは児童から出される考えが似たようなものになってしまい、話し合う必要性が感じられないものになってしまった。しかし、追実践の

流れでは、それぞれのキーワードについて様々な資料や考えが出されたことで、話し合う必要感が高まり、活発な交流につながった。

このことから、追究活動で得られた多様な資料や考えを整理するためには、はじめに調べる視点を押さえた上でその証拠を探させ、Xチャートの中に整理させてという追実践の流れが有効であったと考えられる。

しかし、話し合いに向けて資料を十分に用意するためには、1時間では時間が少ないと感じた。一人一台端末の時代になり、児童が多種多様な情報を扱えるようになったことで、一つの資料に関連する情報やまだ分からないことを自身の興味に応じてどんどん調べていく姿は、本研究のテーマである問い続け、学びを広げ深める姿そのものであると感じた。本実践で見られた児童の追究意欲をさらに活かしながら1時間の学びの在り方や指導の展開を検討する必要があると感じた。

また、ノートに記述した個人のまとめを写真で撮り、ロイロノートの学習シートに貼り付けさせた。まとめをデジタルポートフォリオとして蓄積することで、学習の流れや自分の考え、新しく得た知識の一覧性が高まり、単元終末で自動車メーカー設立プランを作る際には、多くの児童が参考にする姿が見られた。

(3) 今後の課題

GIGAスクール構想によって、一人一台端末が与えられ、興味関心に応じて調べ学習を進めることができるようになった。本時と追実践の児童の調べ学習の様子を比較すると、教師から資料を提示しても、児童自身が資料を探しても、一つの資料からさらに情報を調べていこうとする姿が見られた。一人一台端末が問い続ける環境をさらに強くしていると感じた。しかし、一時間の授業の中で学習問題について調べ、まとめていく流れでは、情報を集め、整理したり、比較・関連付けたりするのに十分な時間を確保できず、児童の追究意欲を満足させることはできないと感じた。

その解決に向けて、授業と家庭学習をリンクさせ、児童の興味関心に応じて調べる時間を十分確保することを検討したい。このようにすることで、授業の時間に対話的な学びのための時間を十分確保していくことができると考える。

<参考文献>

- 北俊夫『「思考力・判断力・表現力」を鍛える 新社会科の指導と評価 見方・考え方を身に付ける授業ナビゲート』、明治図書、2017
- 国立教育政策研究所教育課程研究センター『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料【小学校 社会】』、東洋館出版社、2020
- スージー・ボス、ジョン・ラーマー『プロジェクト学習とは一地域や世界につながる教室一』、新評論、2021
- 小山義徳、道田泰司『「問う力」を育てる理論と実践―問い・質問・発問の活用の仕方を探る』、ひつじ書房、2021